

おお大勝利

平成 25 年度山東サッカー部報第 17 号 (9 月 19 日)

サッカー部保護者の皆様、OBの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

大物食い 成る！ 地区新人2位

9 月 14 日 (土) 15 日 (日) 村山地区の地区新人大会が行われました。昨年村山地区の県新人の枠は 6 あったのですが、今年は県総体にて準決勝まで進出した村山地区のチーム数が昨年の 3 から 2 に減った関係により、県新人の切符が 5 枠に減らされ、厳しくなりました。思えば昨年は、初日 2 試合目で山形中央を PK 合戦にて破り、初日で県新人行きを決めたのでした。実力差がありながら粘り、1 対 1 の引き分けに持ち込み (先制は山東)、相手の GK は国体メンバー (県選抜) に選ばれた好選手ながら、**我らが守護神ヒデアキ**のセーブにより、PK 勝ちを収めたのでした。**今年も粘りある戦いをしたいものの**、初戦の相手が (Y2A リーグで負けている) ショートパス主体の山形南であり、初戦から厳しい戦いが予想される。仮に初戦勝利しても、(Y1 所属チームが順当に勝つと前提して) 初日 2 試合目の日大山形を破るか、二日目東海大山形か山形城北のいずれかを倒さなければ、県新人は決まらない。**私、今年で山東 8 年目ですが、もっとも厳しい地区新人の組み合わせのように感じておりました。**

さて、初戦。ショートパスを主体にボールを大切に作るサッカーをしてくる今年の山形南。練習試合時と異なってゴールキックから (低い位置から) いきなりつなぐリスクある戦いをしてこなかったことには、予想を外され (そしてその予想に基づいた守備の練習が空振りに終わり) 落胆させられたものの、やはり今年の山南は山南。自分たちのスタイルを大切にしている。余談ですが、今年ほど県内の指導者と山南のスタイルについて話になることはありません。主にショートパスで確実にボールをつなぐ FC バルセロナ (バルサ) のようなスタイルは、**目指すだけなら誰でも出来ますが、山南のように自分のものにしてしまうチームはそう多くない。山形の中で今もっとも面白いサッカーをするチームと言っていい。**ただし、対戦相手としては、つなぐれまくり、ボールを追い回され続けた挙句ゴールを揺らされ負けるのは、屈辱以外の何ものでもなく、これまで以上に山南との対決には熱が入る¹。前半の前半に、チャラミことカツミがセカンドボールとなってこぼれた浮き球をボレーでそのまま叩き込み、先制。**紛れないビューティフル・シュート**でした。前半は山東のプレスで山南のパスがずれることが多く、山東が効果的にショートカウンターを繰り出す理想的な展開。練習通りの展開と言っていい。ただし、奪ってすぐミドルシュートを打ち急ぐだけで、打つと見せかけてもう一度ゴールに迫っていく緩急が使い分けられず、前半 1 対 0 のまま。山南の前半のシュートをゼロに抑えることに

¹ ちなみに、自分が高校生の頃は山形東が山南のようなサッカーを志向しており、GK からサイドバックにつなぎ、そこからボールを保持しながら前進していくことを常としていました。自分が現役の頃に好きだったスタイルに対して、指導者になった現在かなり対抗心を燃やしているのも、考えてみればおもしろい話です。ただ、守備的と言われるイタリア・サッカー全盛だった 20 年前にそのようなサッカーを志向することには「反体制」「反主流」「異端」の意味合いがありましたので、バルサ全盛の現在においてそうしたサッカーを志向することとは意味合いが違う、というのが私なりの解釈です。まあ、山形の高校サッカーを前提にすれば、山南のサッカーは明らかに「異端」であり、そうした意味で勇気あるスタイルと思い、一応リスペクトしています。

は成功。しかし、**後半に入ると、山南のパスサッカーのギアが一段上がった印象**あり。山東翻弄されるシーンが目立つ。立ち上がり、ロングパスをしっかりと跳ね返せず高い位置で起点を作られると、そこから上手いスルーパスで抜け出され、失点。その後も、終始押され気味の展開。何とかその後はゴールを死守し、というか、結果的にネットを揺らされることはなく、1対1で即PK合戦へ。**山東のビッグツリー²GK ケッツン**が好セーブで一本止め、山東の勝ち。後半の山南は本領発揮といった様子で、冷や冷やの勝利でした。

次戦の相手は、山工の粘守に手を焼きながら勝利した日大山形。山工戦を観た関係者から、「日大新人チームの不調により山東有利では」との声をかけられましたが、私にはわかっていました。**日大は日大です**。終始スピードあふれる攻撃で押し込められ、時折なされる山東のカウンターも、パワフルな守備陣に寸断され、**何もさせてもらえず**。後半の山東のシュートはゼロ（前半も少しだけ）。しかし、体を張った守備でなかなか土俵は割らない。終盤、日大に決定的シーンが訪れましたが、山東からすればゴールバーに助けられ、結局スコアレスドローで2試合連続PK合戦。**このPK合戦ではビッグツリーが2本止め**、またもや山東勝利。これで県新人の切符ゲット。いや～、結果にだけは恵まれました。

翌15日は、県総体チャンピオンの山形中央。この試合は、Y2A山形中央B戦にて好調だった**CDF アカガワさんが何故かまたもや好調**で、相手の攻撃をヘディング等で抑えるだけでなく、ミスキックに見えるフィードでもことごとくパス(?)を成功させる。もう一人の**CDF タツル**が前日から終始安定しており、GK ケッツンも波に乗っていることから、最終ラインの3人の働きがよく山形中央に良い形を作らせない。かといって山東の攻撃も迫力不足でしたが、後半コウタがゴール前で粘り、フワリと浮かせるシュートを放つとバーに当たり、ゴール前にこぼれる。ここで**抜け目なく狙っていたのがトッポ下のリン**。ドフリーで豪快に蹴り込み、先制。そして、その一点を守り、1対0の勝利。前日より良い戦いができました。

同日、雨でドロドロのピッチコンディションの中行われた東海との決勝戦は、終始押される苦しい展開。ネットも2回揺らされ、2対0の完全な実力負け。**雨であろうと、左足であろうと、パワフルにボールを蹴り飛ばす東海の選手の確かな技術(もちろんボールを蹴ることのできるところにしっかり置くことのできるトラップやドリブルの技術も含む)に脱帽**でした。また、**セカンドボールを拾う意識の高さ(読みと鋭い出足)**も瞠目に値しました。

ということで、最後決勝は負けましたが、**県新人行き自体危ぶまれた今大会、終わってみれば2位と、完全な「大物食い」を果たした大会**となりました。選手の頑張りが心強く感じられました。ただ、「単に守っていただけ」の試合展開も多く、試合時間の短さもあり、「くそ粘り」の同じやり方で来年まで行けるとは到底思えません(というか、県新人、選手権ですぐ馬脚を現してしまうでしょう)。**中盤の構成力、中盤から前の攻撃力をいかに上げていくか、課題が明確になった大会**でもありました。

ところで今大会、山東の見せたアップセットだけでなく、日大を苦しめた山工、城北を苦しめた学院、山本を破り県新人の切符を得た寒河江と、Yリーグのカテゴリーから考えると健闘するチームが多い大会でした。地区トップのレベルについては話を措くとして、力のあるチームの数が多くなったという意味で、地区全体のレベルアップを感じる大会となりました。

さて、今週末からY2A最後の2連戦です。応援よろしくお願いします。

9月21日(土) Y2A 長井戦 @鶴岡東G 10:00~

9月23日(月) Y2A 鶴岡東戦 @山形中央G 10:00~

その後、メトロポリタン山形にて、保護者激励会が18:30からございます。宜しくお願ひ致します。

² 桂を和英辞書(ネット上)で調べましたら、katura tree としか出ませんでしたので、ビッグツリーとしておきます。